

第21回国際かんがい排水委員会(ICID)
総会への対応方針について
農村振興局

平成23年10月13日

農林水産省

目 次

1 . 農業用水を巡る世界の情勢	1
2 . 国際かんがい排水委員会 (ICID) の活動と対応方針	3
3 . 国際水田・水環境ネットワーク (INWEPF) の活動 (参考)	9

【略語一覧】(文中に記述されている順)

FAO (Food and Agriculture Organization of the United Nations) : 国連食糧農業機関

IPCC (Intergovernmental Panel on Climate Change) : 気候変動に関する政府間パネル

MDGs (Millennium Development Goals) : ミレニアム開発目標

ICID (International Commission on Irrigation and Drainage) : 国際かんがい排水委員会

INWEPF (International Network for Water and Ecosystem in Paddy Fields) : 国際水田・水環境ネットワーク

OECD (Organization for Economic Co-operation and Development) : 経済協力開発機構

WWF (World Water Forum) : 世界水フォーラム

1 農業用水を巡る世界の情勢

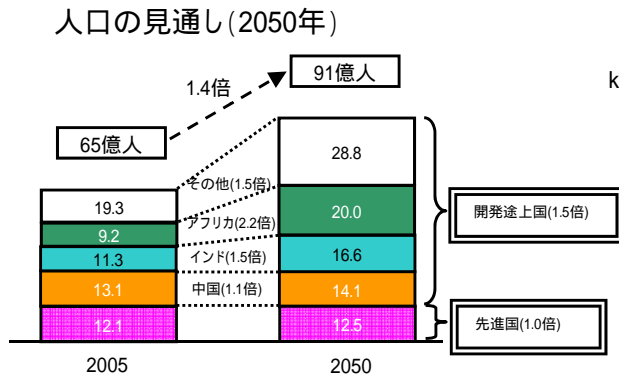
FAOは、2050年に90億人を超える人口に対応するためには農業生産を7割増加する必要があると指摘。一方、世界の耕地面積の伸びは人口の増加に追いつかず、一人当たりの耕地面積は年々減少。そのため、主食となる穀物の増産はかんがい等による単収の増加で対応する必要。

世界的な人口の増加、経済発展、地球温暖化等に伴う水需要の逼迫が予想されるなか、水利用の最大セクターである農業用水の効率的な利用に対する議論が活発化。

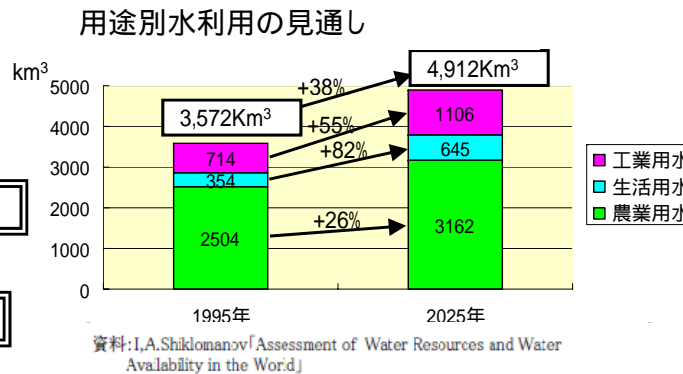
これに対し、世界の主要な食糧供給源である、日本をはじめとするモンスーンアジアの水田農業がもつ、気候的、地形的特徴に基づく水利用の特徴、多面的機能及び農民参加型水管理の優位性を主張し、国際社会での理解の醸成を図っていくことが必要。

世界的な水需要の変化

人口の増加、途上国の経済発展等による水需要の増加



工業用水、生活用水のセクターと農業セクターの水需要の変化



気候変動及びその他の自然環境の影響に対応した水需要の変化

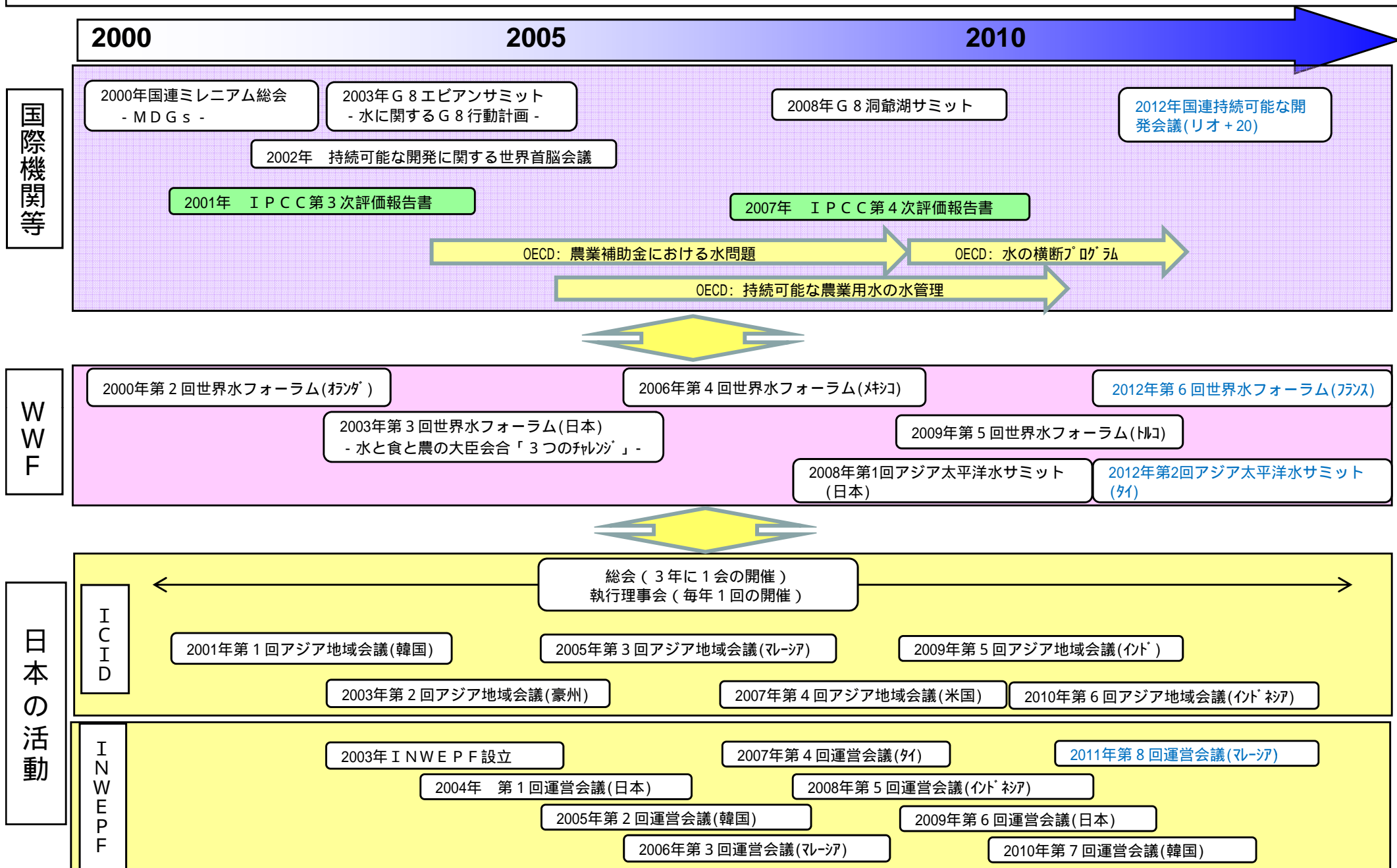
アジアでの温暖化の影響 (IPCC4次評価報告書 WG2より)

- ・2050年代までに**10億人以上に水不足の悪影響**。
- ・南アジア、東アジア等の人口が密集しているメガデルタ地帯で、洪水が増加。
- ・21世紀半ばまでに、**穀物生産量は、東・東南アジアで最大20%増加。中央・南アジアで最大30%減少**。人口増加等もあり、**いくつかの途上国で飢餓が継続**。

これまで水需要の大部分を占めていた農業用水の持続的、効率的利用についての議論が展開

わが国は、モンスーン・アジア水田地域の代表として、水文学的な地域的特徴、水田かんがいの持つ環境保全等の多面的機能(役割)及び農民参加型の水管理の優位性を主張し、水田かんがいにおける水利用の効率性、持続可能性、公平性について国際社会の場で主張していくことが必要

1992年の水と環境に関する国際会議(ダブリン会議)を契機として、効率的な水利用の議論が活発化。その後、国連によるMDGs(ミレニアム開発目標)の採択などを経て、WWF等でも効率的な水利用の議論が展開。
 日本は、ICID、INWEPFでの活動を通じ、アジアモンスーン地域における水田農業の多面的機能等の特長を発信。



2 国際かんがい排水委員会 (ICID) の活動

国際かんがい排水委員会 (ICID) は、かんがい排水にかかる科学的、技術的知見により、食料と繊維の供給を世界規模で強化することを目的として設立された、自発的非営利・非政府国際機関。

日本は、ICID日本国内委員会を設置し、昭和26年よりICIDメンバーとなり、作業部会等への参加を通じ、我が国と世界のかんがい排水技術の情報を発信、収集。

ICID: International Commission on Irrigation and Drainage (国際かんがい排水委員会)

ICID : 加盟国 ; 109ヶ国 (および台湾)

総会 (3年に1度開催)

国際執行理事会 (毎年開催)

地域会議 (概ね2年に1度程度の開催)

常任委員会 (技術活動委員会、財務委員会等3委員会)

委員会 (広報出版委員会、ICIDジャーナル編集委員会等3委員会)

地域作業部会 (アジア地域作業部会等4部会)

作業部会/作業チーム

(環境影響部会、かんがい近代化部会など18部会、3作業チーム)

アジア、アフリカ、ヨーロッパ、アメリカの4地域会議

農業農村振興整備部会

前身の旧かんがい排水審議会より、ICIDに関する事項、その他かんがい排水の改良発達に関する重要事項について調査・審議

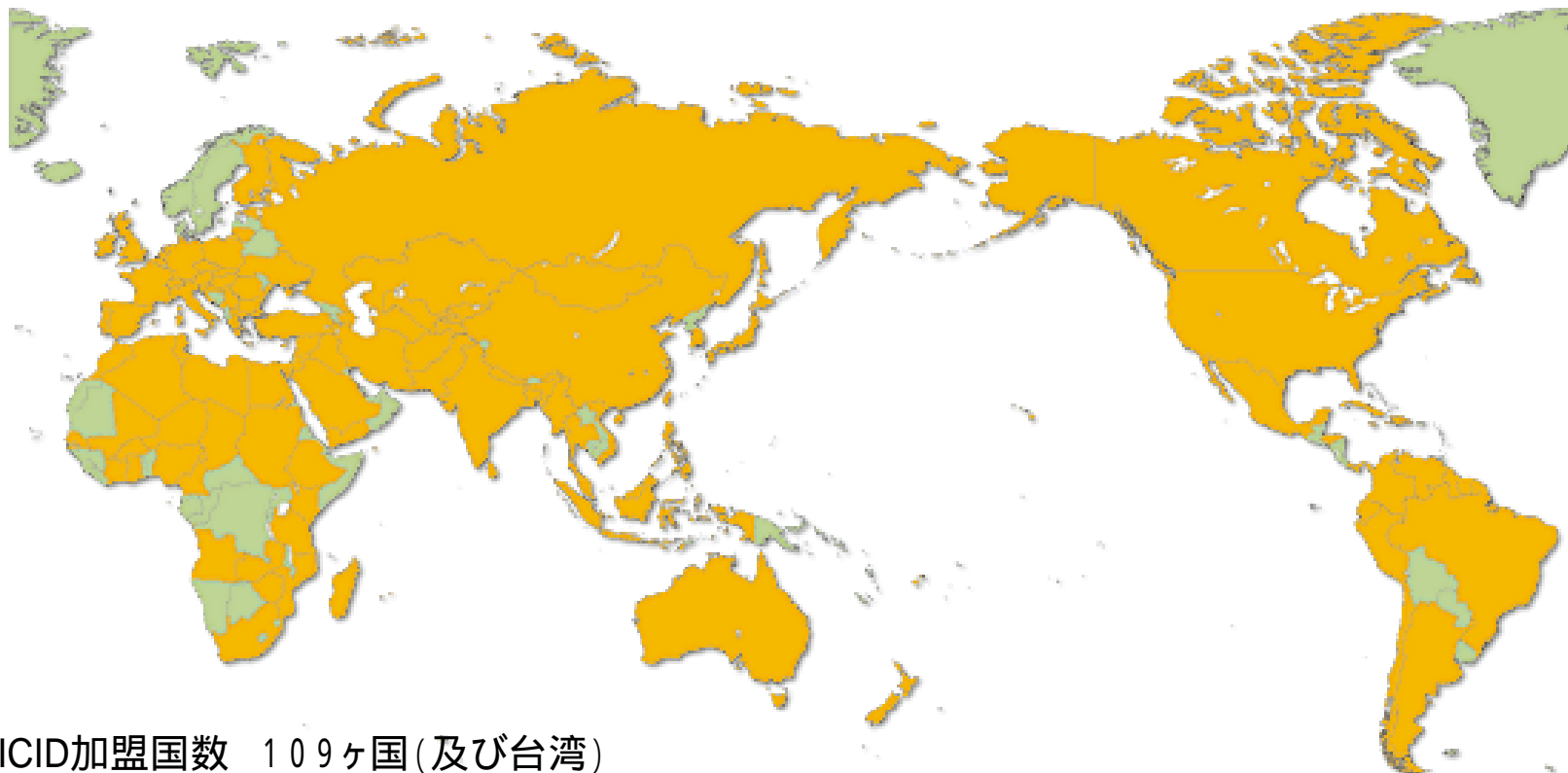
日本国内委員会

学術経験者等をメンバーとし、水田農業に関する知見に係る情報の収集・発信

委員 : 佐藤洋平委員長 (東京大学名誉教授) 他13名

事務局 : 農林水産省農村振興局整備部設計課海外土地改良技術室

【ICID加盟国の分布】



ICID加盟国数 109ヶ国(及び台湾)

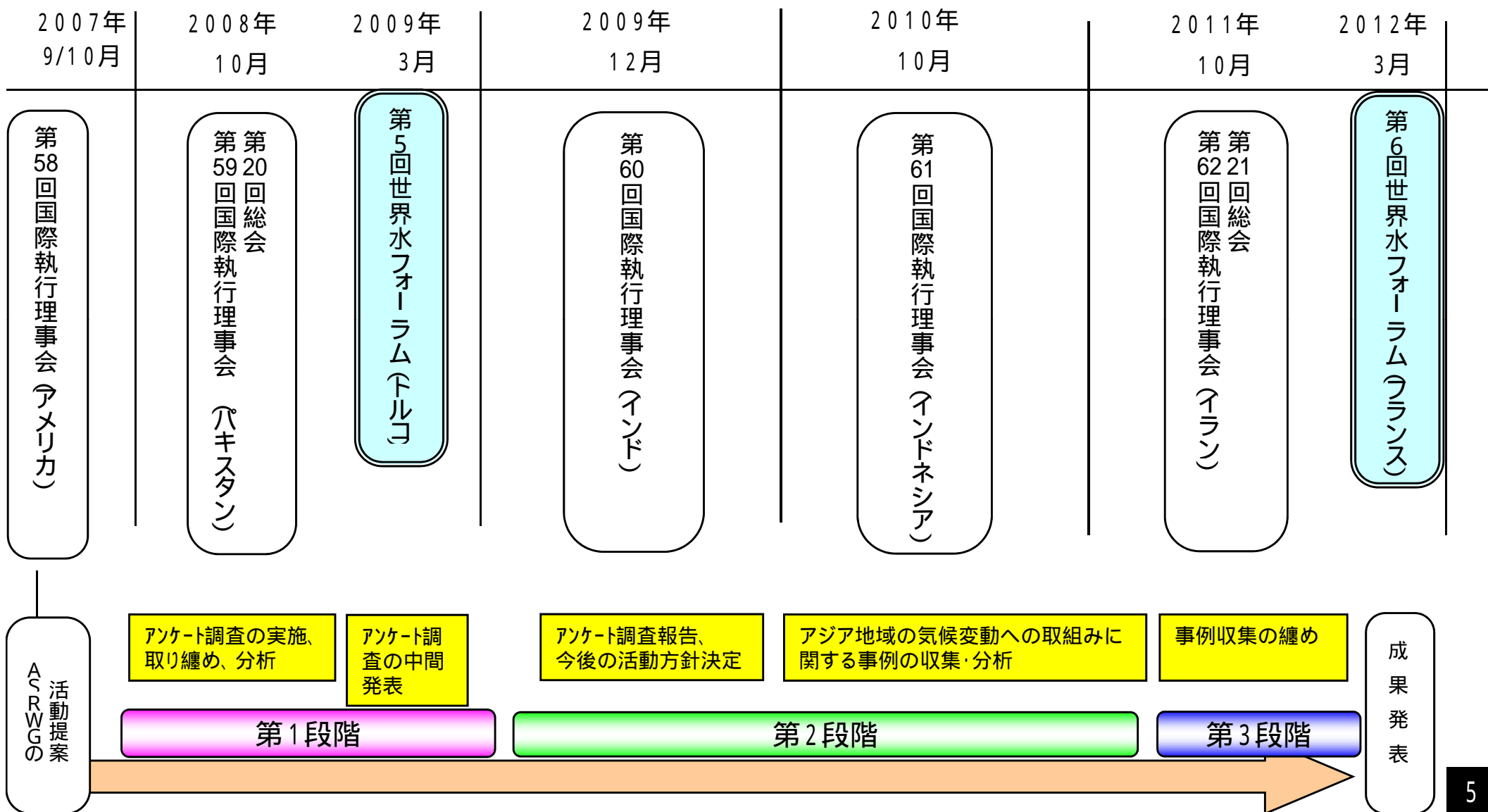
うち、 アフリカ地域	28カ国
アメリカ地域	18カ国
ヨーロッパ地域	29カ国
アジア・オセアニア地域	34カ国(及び台湾)

【アジア地域作業部会における取り組みについて】

毎年、ICID会議(国際執行理事会)にあわせ、ICID各部会(21部会)の会合が開催。

IPCC等の気候変動に対する議論を背景に、アジア地域作業部会(ASRWG)において、日本が中心となり、世界的な気候変動に対する水・食料・農業分野における対応状況の把握と、今後の対応策等について検討するため、「アジアにおける気候変動に適応したかんがい排水の戦略」の策定にかかる取組みを実施中。

この取組みは、2007年のアメリカ会議で日本が活動提案を行い、2008年から活動開始。



アジア地域作業部会 (ASRWG) による「アジアにおける気候変動に適応したかんがい排水の戦略」では、各国の気候変動に対する取組み状況の整理 (第1段階)、気候変動に対する取組み事例の収集及び分析 (第2段階)、収集した事例集の取りまとめ (第3段階) を予定。

第1段階

- ・アジア、オセアニアの29ヶ国へ、これまでのかんがい排水に関する基本施策、気候変動に対する政策や対応方針、研究状況等に関するアンケートを実施。この結果をもとに、各国の気候変動に対する取組み状況を整理、分析。
 - ・ GDP、降水量、水ストレス等により、対象国をグルーピングし、同一グループの国の取組んでいる政策等の類似性を分析。
- ・ 第5回世界水フォーラムで、中間発表として各国と意見交換。

第2段階

- ・ 第60回ICID国際執行理事会(2009年)において、以下を実施
 - アンケート調査の結果報告。
 - 気候変動に対する取組みとして、日本から2つの先進事例を発表(農業農村工学会内に設置された「地球環境問題に関する研究推進小委員会」の活動内容、メコン河と関川で気候変動が農業用水に与える影響)。
 - 事例収集の方法と様式に関する意見交換。
- ・ 第61回ICID国際執行理事会(2010年)において、以下を実施
 - 気候変動に対する取組みとして、日本(日本の地球温暖化への対応と国際貢献)、トルコ(農業用水が影響を受ける気候変動への対応に関する意識向上のための各種活動)、インドネシア(ジャワ島における水利用に関する気候変動の影響)の事例発表。
 - 最終成果物となるパンフレットの基本構成の意見交換。

第3段階

- ・ アジア各国の気候変動に対する詳細な取組み事例の収集し、分析・とりまとめを実施。
 - 各国から事例収集を通じて、問題解決の鍵となる部分 (Keys for success) を抽出。
 - 各国で温暖化に対応したかんがい排水施策の取り組みに活用できる指針を作成。
- ・ 第21回ICID総会や第6回世界水フォーラム等で、成果発表を行うとともに各国と意見交換を行う予定。

【日本の対応方針について】

(1) 第21回ICID総会・第62回国際執行理事会及びICID各部会の会合へ出席

国際執行理事会や日本国内委員が所属する各部会に参加。

この他、スペシャルセッションで以下の日本国内委員がパネルエキスパートとして参加する予定。

テーマ		パネルエキスパートに選出された国内委員
主題56	「水と土地生産性チャレンジ」	佐藤洋平委員長 (東京大学名誉教授)
主題57	「天水農業の水管理」	八丁信正委員 (近畿大学教授)
特別セッション	「水管理の近代化」	佐藤政良委員 (筑波大学教授)

上記の他、会議中開催されるシンポジウム「土壌や水資源への気候変動の影響」において、太田信介委員がアジア地域作業部会で日本が中心となって取り組んだ「アジアにおける気候変動に対応したかんがい排水の戦略」について、講演を行う予定。

(2) 第6回世界水フォーラム(フランス)に向けたICIDの対応について

第6回世界水フォーラムにおいてICIDはFAOと共同で、テーマ2-2『効率的な水利用による食料安全保障への貢献』のコーディネーターとなっており、テヘラン会議において、世界水フォーラムへの対応方針も議題となっている。日本としても、モンスーン・アジア水田地域の代表として、水田かんがいにおける水利用の効率性、持続可能性、公平性について国際社会の場で主張できるよう、議論に積極的に関与する方針。

(3) 会議開催地について

イランでの国際執行理事会においてH27年度に開催される第66回国際執行理事会の開催地が決定。

年度	執行理事会 開催年月日	総会	執行理事会	地域会議			
				アジア	アフリカ	ヨーロッパ	アメリカ
H23	2011.10.15-23	21回イラン(テヘラン)	62回イラン(テヘラン)		3回マリ	25回オランダ	
H24	2012.6	-	63回豪州(アデレード)				
H25	2013	-	64回トルコ(アンタルヤ)	7回トルコ(アンタルヤ)			
H26	2014	22回韓国(ソウル)	65回韓国(ソウル)	8回韓国(ソウル)			
H27	2015	-	66回未定(*注)	9回未定(*注)			

*注:第62回執行理事会にて決定

【対応方針(案)】

第66回執行理事会開催地には、フランスとタイが立候補しており、日本としては、同じアジア地域のタイを支持する予定。尚、タイは第9回アジア地域会議の開催地にも併せて立候補を表明している。

(4) ICID会長、副会長選への対応について

イランで行われる第62回国際執行理事会において、2011年で任期満了を迎える会長・副会長(3名)の後任を決める選挙が実施される。

現会長

	氏名	国	任期	
1	Prof. Dr. Chandra A. Madramootoo	カナダ	2008 - 2011	改選

会長選立候補者(任期2011～14)

	氏名(出身国)	国	備考
1	Dr. Saeed Nairizi	イラン	2001～04 ICID副会長歴任
2	Dr. Gao Zhanyi	中国	2005～08 ICID副会長歴任
3	Dr. Hussein El-Atfy	エジプト	2004～07 ICID副会長歴任

【対応方針(案)】
 同じ東アジア地域から出馬を表明している中国のGAO氏を支持する予定
 (中国からも支持要請有)

現副会長

	氏名	国	任期	
1	Mrs. Samia El-Guindy	エジプト	2008-2011	改選
2	Mr. Shinsuke Ota	日本	2008-2011	改選
3	Prof. Lucio Ubertini	イタリア	2008-2011	改選
4	Dr. Willem F. Vlotman	オーストラリア	2009-2012	
5	Dr. Laszlo G. Hayde	ハンガリー	2009-2012	
6	Mr. A. K. Bajaj	インド	2009-2012	
7	Dr. Ragab Ragab	英国	2010-2013	
8	Engr. Husnain Ahmad	パキスタン	2010-2013	
9	Mr. Chaiwat Prechawit	タイ	2010-2013	

日本から選出されている
 太田信介副会長も任期満了

副会長選立候補者(任期2011～14)

	氏名(出身国)	国	備考
1	Dr. James E. Ayars	アメリカ	
2	Mr. Laurie Tollefson	カナダ	
3	Dr. Adama Sangare	マリ	
4	Prof. Kim, Thai Cheol	韓国	アジア地域作業部会副部長
5	Dr. Gerhard Backeberg	南ア共和国	

【対応方針(案)】
 同じ東アジア地域から出馬を表明している韓国のKIM氏を支持する予定
 (韓国からも支持要請有)

3 国際水田・水環境ネットワーク (INWEPF)の活動(参考)

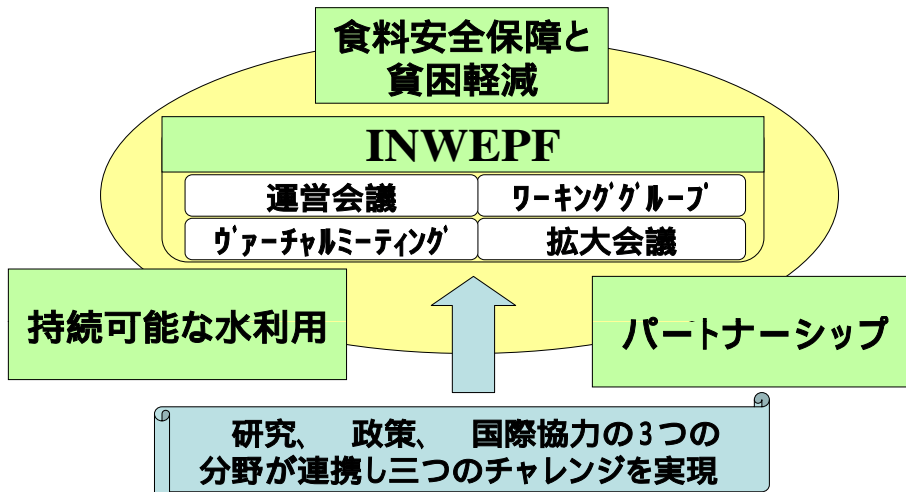
INWEPFは、モンスーンアジア地域の水田と水に関する情報交換と水田かんがい農業に関する国際理解を醸成するための情報発信のための国際ネットワークとして2004年より活動。

昨年、韓国において第7回運営会議を実施し、第6回世界水フォーラムに向けた各ワーキンググループの活動方針を決定。また、INWEPF内に、第6回世界水フォーラムに向けたタスクフォースを設置(リーダー国:日本)。

国際水田・水環境ネットワーク (INWEPF)

International Network for Water and Ecosystem in Paddy Fields

~ 誰もが参加可能な水田と水に関する情報交換の場 ~



設立経緯

INWEPFは、第3回世界水フォーラムの一環として行われた、「水と食と農」大臣会議において採択された「食料安全保障と貧困軽減」、「持続可能な水利用」、「パートナーシップ」の3つの課題に基づく大臣勧告文を受け、我が国(農林水産省)がモンスーンアジア地域におけるネットワークの構築を目指して、設立を提案。2004年に創設。

【メンバー国(17カ国)】

バングラディッシュ、カンボジア、中国、エジプト、インド、インドネシア、日本、韓国、ラオス、マレーシア、ミャンマー、ネパール、パキスタン、フィリピン、スリランカ、タイ、ベトナム

これまでの活動経緯

【第1回会議(2004年日本)】
INWEPFを設立

【第2回会議(2005年韓国)】
農業用水の多様性と多面的機能をテーマに、第4回世界水フォーラムでセッションの開催等を通じ、情報発信していくことを決定

【第3回会議(2006年マレーシア)】
(第1期)ワーキンググループ設立:「水田の多面的機能」、「政策等の策定」、「水田の多面的機能の貨幣換算評価」

【第4回会議(2007年タイ)】
アジア・太平洋水サミットの分科会に参加し、水田の持つ多面的機能、参加型水管理の重要性をINWEPFメッセージとして発表することを決定

【第5回会議(2008年インドネシア)】
水田の多面的機能の貨幣価値換算を第5回世界水フォーラムで発表することを決定

【第6回会議(2009年日本)】
世界的な水議論の場における存在意義を更に強化するため、第6回世界水フォーラムに向けての活動方針の策定とWGの再編を実施

【第7回会議(2010年韓国)】
第6回世界水フォーラムで、INWEPFの成果を発表することを決定。この活動を促進させるために、INWEPF内に第6回世界水フォーラムに向けたタスクフォースが設置。

【第8回会議(2011年マレーシア)】
第6回世界水フォーラムに向けての各タスクフォース活動成果の報告、及びINWEPFとして第6回世界水フォーラムに向けた取組方針の決定

INWEPFでは3つのワーキンググループが活動

11月1日～3日の運営会議では、2012年3月の第6回世界水フォーラムでの各ワーキンググループからの情報発信について議論が行われる予定。

WG1(水田の多面的機能に関するWG) リード国:マレーシア

【第6回世界水フォーラムにむけた活動方針】

- ・水田の多面的機能の価値の定量化を行い、これらのガイドラインを作成する。

WG2(ビジョン・政策・INWEPFの活動の広報に関するWG) リード国:韓国

【第6回世界水フォーラムにむけた活動方針】

- ・水田農業における今日的な政策課題に関する情報を収集し、その取り組み事例をとりまとめる。

WG3(持続可能な水田農業のための国際的な協力と連携に関するWG) リード国:日本

【第6回世界水フォーラムにむけてた活動方針】

- ・持続可能な水田農業に関する政策や取り組みとして、参加型水管理(PIM)に関する事例をとりまとめ、INWEPFメンバー国や国際援助機関にガイドラインとして提供する。
- ・INWEPFメンバー国の専門家リストを国際援助機関へ提供することにより、技術協力プロジェクトへ積極的な参加(研修プログラムの開発、研修の講師、評価ミッションのメンバー)を支援する。